

小児科の主な疾患別入院患者数

	平成17	18	19	20	21
気管支炎肺炎	358	339	404	307	308
急性喉頭炎	47	43	49	32	36
気管支喘息	114	87	72	65	52
急性胃腸炎	127	134	105	123	102
尿路感染症	10	25	15	24	19
川崎病	29	29	33	32	34
先天性心疾患	33	14	23	25	20
総数	1141	1019	1063	933	884

最近では、肺炎気管支炎、喉頭炎、気管支喘息などの入院が減って、入院総数が減っていますが、川崎病が少し増えています。

平成21年 小児科在院日数

分類	疾患名	総数	最小	最大	平均
気道感染症	急性上気道炎	127	2	9	4.5
	急性喉頭炎	36	2	11	4.6
	急性気管支炎・肺炎	308	2	19	5.1
	急性細気管支炎	26	2	13	5.1
アレルギー	気管支喘息	52	3	12	5.0
消化器疾患	急性胃腸炎	102	2	19	4.7
	腸重積症	3	2	6	3.6
感染症	水痘	1	6	6	6
	突発性発疹症	13	3	6	4.6
	尿路感染症	19	6	14	8.0
	無菌性髄膜炎	6	3	6	4.5
	伝染性単核症	9	3	11	6.5
膠原病	川崎病	34	4	18	8.6
	アレルギー性紫斑病	7	2	15	7.1
総計		884	1	62	5.8

小児科の主な入院疾患の在院日数は表のごとくです。ほとんどで平均4～5日間、川崎病や尿路感染症でも平均8～9日間、全症例では、平均5.8日、中央値は5日です。

平成21年 クリニカルパス実施状況

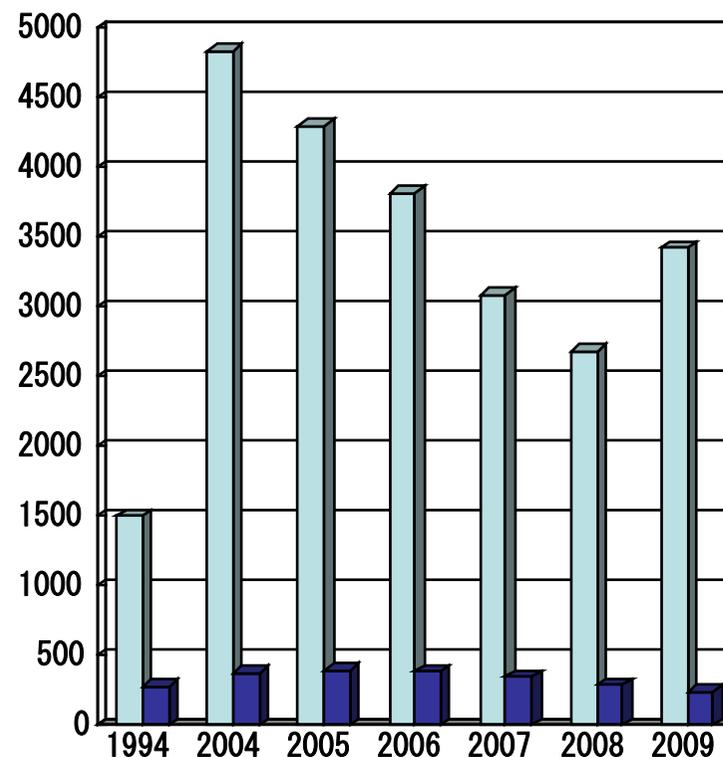
パス名	例数
急性咽頭炎・扁桃炎	127
急性喉頭炎	36
急性気管支炎・肺炎	308
気管支喘息	52
急性胃腸炎	102
尿路感染症	19
川崎病	34
心臓カテーテル検査	14
合計	692

年間入院数 884例
パス実施率 78.3%

現在、小児科で実施されているクリニカルパスは、上の8種類です。
入院数の多い疾患はほぼカバーされており、実施率は78.3%です。

小児科救急患者数と入院率

	受診数	入院数	入院率 (%)
1994年	1505	280	18.6
2004年	4832	379	7.8
2005年	4301	393	9.1
2006年	3818	382	11.9
2007年	3398	348	10.2
2008年	2686	289	10.7
2009年	3424	243	7.1



13年前と最近6年間の小児科救急患者数とそこからの入院数です。最近では夜間診療所や休日診療所の効果で受診数は次第に減って、入院数も減少傾向にあります。救急受診の90%が入院を必要としない軽症例です。